

斑点米カメムシ類の水田内への侵入量がやや多い

～1回目薬剤散布後の草刈りを必ず行ってください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

8月1～2半旬に行った抽出ほ場調査（80地点）における水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数は2.5頭（平成1.6頭）でやや多かった。そのうち、アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）は1.7頭（平成1.0頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）は0.8頭（平成0.5頭）でいずれもやや多かった。同調査における斑点米カメムシ類の発生地点率は44%（平成37%）でやや高かった。そのうち、アカスジは28%（平成22%）でやや高く、アカヒゲは30%（平成19%）で高かった（表-1、図-1）。特に、水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草が発生しているほ場でアカスジの発生が多かった（表-2）。

県内6地点の予察灯における7月の平均誘殺数はアカスジが14.7頭（平成27.2頭）でやや少なく、アカヒゲが203.0頭（平成129.6頭）でやや多かった。

8月2日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予報されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると予想される。

以上のことから、水田内における斑点米カメムシ類の発生量は多く推移すると予想され、斑点米被害に注意する必要がある。

2. 防除対策

- 1) 1回目の防除として出穂期10日後頃にアルバリン剤又はスタークル剤の茎葉散布剤を畦畔を含めたほ場全体に散布する。
- 2) 出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行い、アカスジの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。その後草刈りをする場合は、稲の収穫2週間前以降に行う。
- 3) 水田内に出穂したホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場、イネ科雑草が主体の牧草地や休耕田等の発生源に隣接しているほ場では、出穂期24日後頃にキラップ剤の茎葉散布剤を必ず散布する。その他のほ場については、今後の予察情報に注意する。
- 4) 法面や休耕田等の雑草地の除草は、稲の収穫2週間前以降に行う。

3. その他

- 1) 水田内にあるノビエが現在出穂していないほ場でも、8月下旬までに出穂する場合は2回防除が必要となるので注意する。
- 2) 殺虫剤を散布する際には養蜂業者等と連携をとり、みつばち等への危害防止に努める。
- 3) 蜂場（巣箱を置く場所）が近接している場合は、みつばちが水田に飛来してくることがあるため、みつばちの活動が最も盛んな時間帯（午前8～12時）の農薬散布を避け、できるだけ早朝又は夕方に散布する。

4. 資料

表-1 水田内における斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月1~2半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジ		アカヒゲ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
平成30年	2.5	44	1.7	28	0.8	30
平年	1.6	37	1.0	22	0.5	19
概評	やや多	やや高	やや多	やや高	やや多	高

※すくい取りは20回振りで行った

表-2 水田内雑草の発生状況別すくい取り数(8月1~2半旬)

雑草の発生状況 (ノビエ・カヤツリグサ科雑草)	雑草発生状況 別地点率(%)	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
1本/m ² 以上	13	5.9	1.2
1本/m ² 未満	22	0.4	0.4
発生無し	45	0.8	0.8

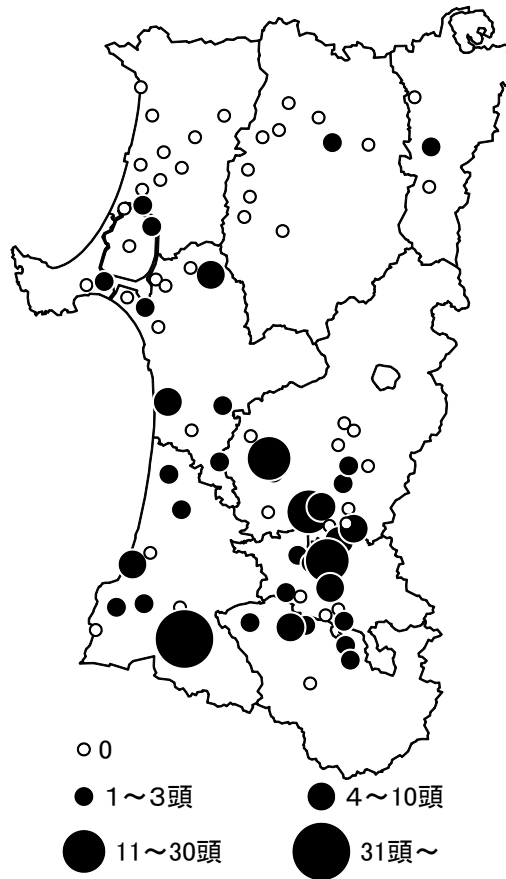


図-1 水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り数(8月1~2半旬)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>